



《教育長メッセージ 第77号》

『日の出』

私は、この職に就いて8年目に入ったところですが、この間、10月の終わりから3月のはじめの約4カ月間は、九里の土手（大谷峰）から昇る太陽を仕事場から、拝んでいます。（途中、私の仕事場は、市庁舎5階からこどもセンター2階に移りましたが、両方とも、幸いなことに、日の出が見える場所です。）

「拝む」というのは、子どもの頃の元朝参りで、毎年、三陸の海から昇る初日の出に手を合わせていたことから、「日の出」には手を合わせる、「拝む」という感覚なのです。

当たり前のことなのですが、「日の出」は、晴れていれば、毎日、拝むことができます。

そして、その景色は、毎日、違います。

この時期、朝は、東雲が広がることが多く、その雲の様子で、毎日の朝の色が違うのです。

また、太陽が顔を出す位置も移動します。

私が毎年楽しみにしている日は、大谷峰のマンションの高架水槽の上に濃いオレンジ色の丸い太陽が重なる日です。まるでロウソクのように見えるのです。

ただし、残念なことに、以前、市役所庁舎にいるときは見えたのですが、角度的に、こどもセンターからはそれが見えなくなりました。

それでも、日々、変わる景色を楽しんで過ごしています。

みなさんもそうでしょうが、一日、一日を過ごしていると、上手くいくこともあれば、上手くいかないこともあります。仕事上は、大きな課題がのしかかって、何日もその解決に苦慮することもあります。

どうでしょう。どちらかという大変な一日であることが多く、昨日を後悔することもあるでしょう。

そんな中、私は、「日の出」に救われています。

九里の土手から昇る太陽に、毎日をリセットしてもらっているのです。

もちろん、曇りや雨の日もありますが、いつの間にか、朝早く、あれこれ思い・考え仕事することそのものが、昨日がどんな一日であろうと、今日もがんばろうと思わせてくれるのです。

また、「拝む」手を合わせるということから、これは、曇りや雨の日にはできないのですが、恥ずかしいですが、「日の出」に、太陽に、自分の思いや願いをブツブツ言うことがあります。

気になることがうまくいきますようにとか、今日は、これをやり遂げるとかということです。

今は、12月8日7時32分です。

今日は、めずらしく雲ひとつない冬晴れの朝で、朝早くから教育委員会のフロアの掃除をしてくださる3人の方々に声をかけ、いっしょに「日の出」を見ました。

「うわあ、きれい。」「今日も仕事がんばりしょうか。」「今日はなんかよい日になりそう。」とってくださいました。

3人の方が仕事に戻った後、私は、「今日も一日よい日でありますように。」と手を合わせました。

次回は、『学校に行けない』と題して、子どもの学習権の保障について、私の思いや考えを述べてみたいと思います。